

# 分散会7

司会者 西谷 佳真  
記録者 宇都宮 健太  
会場責任者 溝渕 雅子

## 生涯学習音楽指導員研究会ネットワーク・山口（山口県）

### 地元の素材で生まれた創作楽器楽団

2006年、高泊児童館に「竹楽器を作る会」を地域の有志12名で結成し、地元の竹を伐採して5種類の楽器を製作した。平成19年度、県下初の小学生で編成した竹楽器オーケストラ「高泊たけの子オーケストラ」が誕生。活動として、おいでませ！山口大会、ふれあい文化祭、2012全国植樹祭、2015世界スカウトジャンボリー等に出演。

また、平成20年度から、山陽小野田市の産業である窯業から始まったガラス文化を利用してガラス作家と音楽家のコラボにより製作されたガラス楽器を親子で奏でるアンサンブル集団「ONODA グラスアンサンブル」が誕生。X'mas グラスアンサンブルコンサート、山口県ものづくりフェスタ2009、市民ふれあいの集い等で活動している。地元の素材を大切にしながら、澄んだ優しい音色を奏でている。



廣田 由実さん  
阿部 恭子さん

## とさっ子タウン 実行委員会（高知県）

### 子どもが運営する「とさっ子タウン」

高知市では、子どもの社会参画事業として、子どもが運営するまち「とさっ子タウン」を実施しており、この事業をきっかけとして子どもたちに社会参画に興味を持ってもらいたいと考えている。対象は、小学4年生か中学3年生まで400名の子どもたち。子どもたちは、まちのしくみやルールを学んだあと、50名を超える専門家の指導で仕事をし、給料をもらって、税金を払うという流れで生活する。キッズニアと似ているが、自分たちでまちを変えていくという点が大きく違うところである。また、地域の企業や専門家にも参加してもらい、本格的なものになっている。実行委員会のメンバーは、大学生が半数であり、卒業してから「とさっ子タウン」に何らかの接点もあり、地元還元型の取組になっている。



森岡 眞秋さん

## くじらグループ社会福祉法人 弘正会（愛媛県）

### 障がい児者フットサルの活動

平成21年12月から、毎月企画・運営している「発達障がい児フットサル」。開始当時は、本人も、家族も、教員も否定的な見解が多かったが、とりあえず集まってもらうことからの始まりだった。6年目の活動になり、今では発達障がい、知的障がい、精神障がい、ダウン症などの児童を中心に、その家族や兄弟姉妹が、一緒になってボールを追いかける。その取組を続けたことで気付いたことがある。一つ目は、気づき、傾聴し、つなぎ、見守ることである。二つ目は、子ども自身が自己決定、自己選択をすることである。三つ目は、全員が楽しむことが大切であるということである。楽しむことを大前提に、この取組をさらに続けていきたい。障がい児にとって楽しめる環境を作っていきたい。



幸田 裕司さん

発表者→発  
質問者→質①  
司会者→司

## 生涯学習音楽指導員研究会ネットワーク・山口 山口県

発表者の話（さらに具体的に）

発：竹楽器を作ろうと思ったきっかけは、自分たちの地域のまわりには、竹がたくさんあったこと。子どもがたくさんいたこと。そこが、はじまりのきっかけだった。たくさんの方の支援事業もあった。楽器作りから子どもたちは楽しんでやっている。まず「高泊オーケストラ」が誕生。平成 20 年度から、「ONODA グラスアンサンブル」が誕生。どの活動も子どもたちの笑顔であふれていた。両楽団ともに、いやしの音楽を目指している。来年は、10 周年ということで、だれにでも参加できるということをテーマに活動している。

質①：類似した楽団はあるのか？

発：佐賀の吉野ケ里楽団、広島竹原があり、支援者の大人は横笛などで参加している。

質②：練習のペースは？どのように入会できるのか？

発：月 2 回、グラスアンサンブルは、日曜午前中。大会が近づくともう少し練習の回数を増やしている。子どもは、無料で参加できる。児童館で児童クラブとしてやっている。山陽小野田市では、小学校 12 校あり、小学校区に対して児童館が 1 つ（ここがすばらしい。愛媛にはなかなか児童館の数が少ないという話がたくさん出た。）あるので、その児童館で登録すれば参加できる。講師はボランティア。児童館の運営は、福祉協議会が行っている。

質③：魅力は？

発：子どもたちが笑顔で生き生きと演奏をすることである。また、地域で活動しているので、子どもたち、地域の方、保護者の中でコミュニケーションが生まれる。さらに続けていきたい。

## とさっ子タウン 実行委員会（高知県）

発表者の話（さらに具体的に）

発：2009 年度から始まって年に 1 回 2 日間開催。2013 年度から会場を高知市文化プラザに移転。

実行委員の構成は、様々な分野で活動する大人と大学生・高校生約 100 名で構成。子どもが運営するまち「とさっ子タウン」には、約 40 業種の仕事があり、子どもたちは、専門家から仕事を教わりながら仮想のまちを体験する。まちでは、市長選挙や議会が行われ、政治や都市運営など、子どもたちが話し合いながらまちを変えていくことができる。貯金もでき、就労経験を積み資金をためれば、自前で店舗開店も可能。保護者は参加することができないが、子どもたちに（本人の職歴が分かる）とさっ子タウン市民証や（まちの出来事が分かる）新聞を持ち帰ってもらい、家庭でコミュニケーションを深める工夫も行っている。将来的には、行政をあてにしなくても継続できるように、協賛金や寄付金、協力企業等の寄付つき商品の販売で「とさっ子タウン」の運営に努力している。人や関係団体同士のかかわりが深くなることもメリットがある。当日スタッフとして参加した学生が実行委員となり、行政や NPO などの事業運営組織に就職している人もいる。地域還元型になっている。

質①：トス（通貨）が余ったら来年はどうなるのか？どうやって参加できるのか？

発：トスは貯金して翌年使うことができるようになっている。また、小学 4 年生～中学 3 年生ま

でが参加対象。中学3年生は、兄弟に相続できるように計画中。はがきで申し込みができる。400人申し込みの定員だが、現在、県外からも応募が来ていて400人を超えると抽選になる。ホームページをぜひ見てもらいたい。

質②：定員増加が必要でないのか？場所については？

発：申し込みは多く、定員増は必要と考えているが、日程的には2日間以上続くと場所の確保が難しい。現在文化プラザの指定管理者が支援団体に入っているので、無料で提供してもらっており、料金面も考えて今の場所がよい。

質③：魅力は？

発：子どもたちが笑顔で生き生きと活動できる。魅力は、自分たちでまちを変えることができること。こども市長になって税率を変えることもでき、社会参画の重要性を学べる。また、県知事や市長と意見交換することで現実社会を学ぶこともできる。子どもたちは、保護者が入らないので保護者の目を気にせず行動できることも魅力の一つである。

## くじらグループ社会 福祉法人 弘正会（愛媛）

発表者の話（さらに具体的に）

発：現在、発達障がいについて様々な種類が増えている。また、大人の発達障がいが増えている。その中でも、コミュニケーションの障がいが増加している。一つの個性としてとらえることが大切でよい所を伸ばしていくことも大切である。その中で、八幡浜の児童を中心に、フットサルチームを作っている理由は、足を動かすスポーツなので誰でも参加しやすいということで、保護者の方や見学者にも強制的に一緒に参加してもらっている。その理由は、一緒に汗を流すことで、見えないことが見えてくるからだ。また、この取組を続けていくことで、教員の目もかなり変化してきたようだ。それは、児童に変化が見え始めたからだ。だからこそ、もっと多くの人にこのようなスポーツ取組があることを知ってもらいたい。スポーツといっても勝つことにこだわるだけでなく楽しむことを目的として活動している。一つ気になることは、精神障がい者のスポーツでバレーしかないことが疑問である。政府には、いろんなスポーツを企画・立案して行ってほしい。

質①：フットサルのメンバーは何名くらいか？なじめない子もいるのではないか？

発：20名くらい。はじめは、なじめない子もいるが、回数をこなすことと保護者も一緒に参加することでその子が心を開いてくれることが必ずある。

質②：魅力は？

発：やはり、子どもがかかわる瞬間を見ること。輝く笑顔に会えること。また、保護者の意識も少しずつ変わっていくことが、このフットサルを通していくことの大切だと思う。続けていきたい。しかし、場所の確保や練習回数の条件があるので、現在検討中である。

